棚、その他卍字崩欄、月字型引手、水仙釘隠などがこの時の作であるという。

第四は大勢のお伴を接待するための笑意軒の新築である。

これらは流手奴みの待水尾上皇の意を体して、第二次造営までの桂別業の意匠と著しく異なった、技巧過多のものになってる、といはれる。果して後水尾上皇の好みにそれほどの責任があるかどうかは、よほど再念に調べて見なくてはならないと思ふが、それを別

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』　請求記号 WB12-71

ガラス使用

にしても、古書院より中書院が、中書院より新御殿が、更に新御殿のうちでも上段の間や桂棚などが、漸次より多く手のかゝつたものになつてゐることは事実である。それは八條宮の背後にあつて普請を支持したものの、財、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、いゝ、力の段階を示すのであるかも知れない。即ち近衛家よりも京極家が、京極家よりも前田家が、財力において優れてゐたことの反映でもあるであらうしこの頃に時代もまた暗い見えて贅沢になつて行つたことを考へ合は

写真 31
新御殿一の間
上段 32
桂棚

せなくてはなるまい。初代八條宮が初めて此畑のかろき茅屋を営まれた時から考へると、この第三次造営は元禄時代の方へ近くなつてゐる。桂棚の高奢のやり方にもよほどさういふ時代の匂がする。

しかし桂離宮の建築の美しさはその簡素なところにあるのであるから、豪奢になつたからと云つて美しさを増したといふわけには行かない。その最もよい例様がこの棚桂（タガヤサン）であらう。これは紫檀、黒檀、鐵刀木、横櫛、伽羅

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

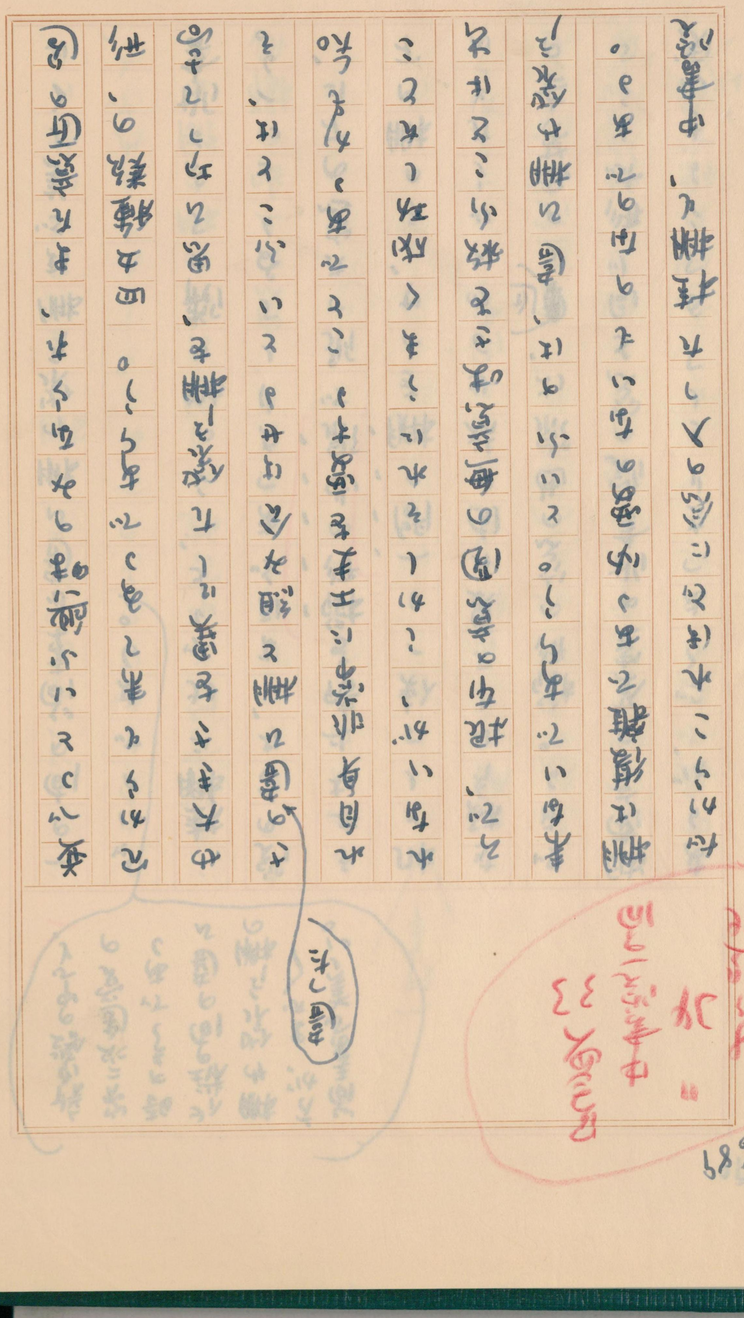
若木、その他いろ〳〵の名木珍木を集めて作られてゐるのださうであるが、それによって何か特別の美しさを作り出してゐるとは見えない。むしろ名木などへの興味に囚はれための煩はしさがそこに現はれてゐるであらう。

桂離宮の特徴である簡素な美しさは、いつもいい、いい、いい、形の鮮やかさを伴ってゐるのであるが、そうにはその鮮やかさがなく、いかにもごた〳〵した感じになってゐる。

このごた〳〵した感じは、数多くの名木を

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』請求記号 WB12-71
ガラス使用



新御殿の中でも、第二次造営の時のものである化粧の間の違ひ棚や袋戸棚の方が、まだ〳〵簡素で美しい。

一の間の簡素な違ひ棚や袋戸棚ほど美しくはないのである。

桂棚に比べると、この棚に隣つてゐる附書院の方は、よほどあつさりしてゐるといへる。それは上部を櫛形の曲線で限つた窓の下に、机として使へる一間の棚をつけ、その棚の下を板戸にして夏は開け放せるやうにしたものである。櫛形の窓の曲線は、遠くの西芳寺の湘南亭の茶室の附書院の窓と同じ形ださうであるが、ごく あつさりとしてゐてうるさい感

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』　請求記号 WB12-71
ガラス使用

に至ってはゆ雪にしを些くない。窓下の棚に至ってはゆ雪にして十分なだけのものである。しかしそれでも、この附書院を中書院一の間の違ひ棚と洞みの会つたものにするためには、窓の上部の櫛形をやめなくてはなるまい。

（行アキ）

明暦四年に後水尾上皇の御幸があつてから三年後の寛文元年（一六六一）に、常照院殿が殺せられ、翌寛文二年に続いて二代目八條宮が四十四歳で殺せられた。これで初代八條宮

桂離宮の造営に密接な関係を持たれた方々は、悉く世を去られたことになる。が、三代目八條宮穂仁親王は後水尾上皇の実子なのである。だから、その関係でか、寛文三年には、三月と十一月と二度、桂別業は後水尾上皇の御幸を迎へてゐる。桂別業と後水尾上皇との関係が非常に深くなって来たわけである。

後水尾上皇が大老酒井忠勝に対して修学院の茶屋とか度々の寺とかへの外出の自由を要求されたのは、寛文三年（一六六三）であった。そ

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』　請求記号 WB12-71
ガラス使用

の年に上皇の特に愛しておられた後光明天皇が二十二歳の若さで天然痘のために夭折されたので、その打撃で象鬱病が重り、それの保養のために手軽か遊山か必要となったのである。幕府がそれにどう答へたかは明かでないさうであるが、翌明暦元年あたりから、修学院への御幸かしばしば行はれるやうになってゐるといふ。明暦四年の桂への御幸もさういふ傾向の現はれであらうし、寛文三年の春と秋の両度の御幸もその續きであらう。寛文三

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

年には後水尾上皇はすでに六十八歳になって
ゐられたが、しかしこの後また二十年近く、
八十五歳まで生きられた方であるから、桂離
宮に濃厚に後水尾上皇の色彩が現はれて来た
といふことも、当然の勢であらう。
誠って考へて見ると、初代八條宮が最初下
桂の茶屋を普請して近衛信尋様御待の支度をさ
れたのは、後水尾天皇の女御東福門院の入内
の当日であった。この入内と近衛信尋様御待と
が、桂別業の創工に密接な関係を持ってゐる

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

らしい。その後第一次退位が行はれ、初代八條
院が殺せられた寛永六年に、半年遅れて後水尾天皇
も退位された。寛永の年号はその後なほ十四
年の間続いてゐるが、その間在位された明正
天皇は、東福門院の御腹の女一宮である。つ
いで二代目八條院の第二次退位の行はれた正
保年間は、東福門院の御腹ではないが、後水
尾上皇の皇子がやっと十二歳になられて、即
位されると共に始まったのであった。その後
光明天皇が十年後に崩ぜられて、それが、前

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

一行アキ

しかのやうに、後水尾上皇の桂御幸の機縁となつたのであつた。かう考へてくると、桂離宮の造営と後水尾天皇との間にも、かなり深い繋がりがあるといはなくてはならない。

以上桂離宮の第一次、第二次、第三次の造営を通じて、こうに取上げそこなつた問題は、なほ多数に残つてゐる。中でも庭園建築のなかの月波楼や笑意軒は、かなり大きな問題である。

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

写真35 月波楼 全面

〃 36 月波楼 南面

〃 37 中のつぼ 弧状仮上のつぼ

〃 38 中のつぼ 上面をみる

月波楼は月見の茶屋として建てられたもので、古書院の月見台と同じ方向に向いてるが、池を廣く眺め渡すこの方が形勝の位置をしめてゐるといつてもよい。初代八條宮が池を掘り始めると共に最初に計畫されたのは古書院であらうから、そこの月見台が幾秋か用ゐられて来た後に、それを補ふ意味で新しく考へつかれたのがこの月波楼ではないかと思はれる。それは多分松琴亭に茶室が附設された頃のものであらう。池を距

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』　請求記号 WB12-71

ガラス使用

て、對岸から眺めると、古書院の大きい屋根のゆったりとしたふくらみが目立つのに對して、月波屋根の直線的で、いかにも軽快に見えよう。実際は極めて軽微なふくらみを持つてゐるらしいが、柿葺の屋根が落くて切れ味鋭いせいか、むしろ直線的平面的に見えるのである。さうしてまたその印象を強めるかのやうに、月波楼の池に面した側には、鋭く直線的に刈り込んだ生垣が、軒の線と平行して、二重に走つてゐる。それで棄がついて眺め迫

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

して見ると、さういふ直線的な刈りこみ生垣は、月映樓の周囲には非常に多いのである。だからこの月映樓が、直線の支配の始まつた時期に属することは、どうも疑ふことの出来ない事実のやうに思はれる。

外観のみでなく、月映樓の内部もさういふ印象を与へる。東北向きの狭い一の間に天井が張つてあるほか、東南向きの、多分月見の室であつたらうと思はれる中の間も、それに次いだ次の間も、土間も、縁側の板間も、す

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

べて化粧屋根裏で、屋根裏地の葭、それを縦横に押へてある細竹、それを更に下から支へてある太い丸竹、それらを更に全体として支へる丸竹や丸太などが、皆あらはに見える。それらの悉くが直線に近い線なのである。その間にわざと曲った皮付の極丸太が棟木の支へとして使ってあるが、その曲りがそのまく人目につくのは、周囲の数多い直線の故であらう。こゝにし、それほど数多い線であるから、うるさい感じは出へない。

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』請求記号 WB12-71
ガラス使用

（行ア）

虚偽の支配と、それに対する無力感とは、
みるみる、わたくしの心を、
そんなにも、ひどく、
ふかい、これ、虚偽
の、
自分の、
紫宸殿、
的な、
に、
うが、
ら、
ん、
の、
ん、
の、
の、
の

写真19
笑意軒北面
〃40
笑意軒前舟着場
〃41
笑意軒土底
〃42
笑意軒土底

か、笑意軒の周囲にも、直線的に刈り込んだ背の高い生垣とか、直線的に走る長い敷石道とか、水際に直線的に切られた並べた舟着場とかが作られてゐる。笑意軒はさういふ直線のとゝのかと一緒に眼に入つてくるわけであるが、その茅葺の屋根の線とか、軒端の横の線とか、柿葺の底の線とかは、皆直線で、或は平行し、或は直角に交はるやうに見える。これが笑意軒の第一印象である。

笑意軒の建物の第一の特徴は、その北側、

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

写真43
笑意軒
上の丁
44
笑意軒
水屋の内

即ち舟着場に面した方に、松琴亭の正面と同じやうな土庇をつけ、さうして松琴亭とはかなり違つた趣を出してゐることである。その相違は、踏石や飛石の置き方が松琴亭の場合よりも砕けて見えること、その飛石の間に松琴亭の場合のやうに砂利を敷いてゐないこと、隨つて土庇のはづれに切石で境界線を作るゆ要はなく、その代りにちやうどその場所に三尺幅位の廣い敷石道（延段）が真直に通つてゐることなどであらう。建物の方にもそれに應

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

いて幾分の相違がある。土底の柱や桁に皮付のまゝの自然木を使ふ代りに、磨丸太を使ってゐる点なで、著しく目立つところである。また丸竹の梅の押へてゐる小舞が個竹でなく木になってゐることも、よほど感じを変へてゐるかも知れない。それらに加へて、土底の方に見えてゐる壁に、丸や矩形などの数多く、下地窓がつけられてゐることは、松琴亭の土庇にはないことであった。

そのほかこの建物には、竹の連子窓とか、

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

外縁の端に立ててある高い竹の連子とか、強く直線の並列を印象すものであって、内外ともに直線の支配加よほど顕著である。随ってこの建築は、たとひ桂離宮と同じ時のものであったとしても、桂離宮よりはずっと簡素で、中書院以来の意匠がこっかり脊骨として通ってゐるやうに思はれる。もし中書院の縁側の改造、即ち勾欄を撤去してそこへ外障子を嵌めたのが、同じくこの時の仕事であったとすれば、さういふ仕事とこの笑意軒の建築とは、

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

昭和45
賞花亭
〃46
賞花亭
内新

同じ人の同じ意匠によってあきられたというかも知れない。さうしてさういふところに、二代目八條宮や常照院殿などのの好みが、案外にはっきりと出てゐるのかも知れない。

一行つぎ

なほこのほかに、この庭中での最も高い場所である最大の中島の頂上に、賞花亭といふ小さい建物がある。もと八條宮の今出川の本邸にあったものを、二代目八條宮の時にこの地に移したといふのであるから、もとは初代

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

八條宮の意匠になつたのであるかも知れない。
峠の茶屋の趣向ださうであるか、直線の支配
が室外にはつきりと出てゐて、中々馬鹿にな
らないものである。

一行アキ

なほそのほかに庭では石燈籠、建築では裏
廻りの室や廊下、襖の縁、違ひ棚や建具の金
具など、注意すべきものが非常に多いのであ
るが、それらの一々を省みてゐるときりが
ないので、餘錄もこの程度で留めることにし

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

メモ

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『桂離宮』 請求記号 WB12-71

ガラス使用